

種名	ヒ シ <u>Trapa japonica</u> 					
	分類	被子植物双子葉離弁花類ヒシ科	俗称	ミスモグサ、ツノジ、ミズクリ	生活型	1年草、浮葉植物
分布	北海道、本州、四国、九州に普通に見られ、朝鮮半島、中国大陸、台湾、インド、アフリカなどに広く分布する。					
形態	<p>根: 糸状の貧弱で細長い根を泥中に多数生じるほか、水中茎の全長にわたって、各節から葉緑素を持った1対の長さ5~10 cmの羽状の水中根を出す。</p> <p>茎: 4~5月頃、発芽した種子から細長い水中茎を水面まで伸ばす。茎は径2~3 mm、長さ1~2 mに達するが、長さは水深によって異なる。</p> <p>葉: 浮葉は茎の頂上に放射状に叢生する。葉は互生し、下部から初めに出た外側の浮葉ほど葉柄が長く、あとから出る中心部に近い浮葉ほど葉柄が短い。</p> <p>葉柄は長さ5~20 cmで、中央より上方はやや膨らんで内部は海綿質の浮囊となっている。葉身は卵状菱形または菱形三角形で、長さ2.5~5 cm、幅3~8 cm、上方の両縁に8~12対の不整な顕著な鋸歯がある。葉の表面は濃緑色で光沢があり、裏面は淡緑色で微毛がある。</p> <p>花: 花期は7~10月。日中、葉腋に柄のある径約1 cmの4弁の一日花を1個ずつ開く。花は虫媒花。</p> <p>果実: 花後、花柄が伸びて長さ2~4 cmに達し、水中に垂れ下がり、結実する。果実は骨質の堅果で扁三角形、長さ3~5 cm、前後の厚さ1.2~2 cm、上下の高さ1.5~2 cmで、2本の槍状の刺針を持つ。結実後、植物体から離脱し、水流によって移動しながら沈下する。</p>					
類似種	ヒメビシはヒシよりも小型で分布も少なく、純群落をつくる傾向がみられる。葉身は幅2~3 cmでほとんど毛がないこと、果実は小型で刺針が4本あることなどで見分けられる。オニビシは葉はヒシよりも大型で長さ5~6 cm、幅6~8 cmで、先端の両縁に15~20個ずつ三角形の粗い鋸歯がある。果実は現存するヒシの仲間では最大で、先端に逆刺のある刺針が4本ある。					
生息場所	各地の池沼や溜め池の水深2 m以下の水中に群生し、水面を覆い尽くすように繁茂する。ヨシなどの抽出植物群落よりも、池の中心に近い部分に生育する。一般に、ヒシ群落の水面下にはホザキノフサモ、エビモ、マツモなどの沈水植物が生育し、階層構造を示す。					
繁殖	種子で越冬し、繁殖する。種子は4月頃発芽し、7~10月頃開花し結実する。					
他生物との関係	マダラミズメイガ、ハムシ類などの食草となる。					
配慮のポイント	生育水域の水質。底質の悪化を防ぐように努める。					
トピック	ヒシの実は、古来食料として重用された。救荒植物として知られるほか、胃腸薬にもなる。オニビシの果実は、昔、忍者が敵から逃れるときに、まきびしとして使用された。					
その他						
引用文献: 『川の生物図鑑』を改変						